

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

1 大田区学習効果測定の結果分析（昨年度の授業改善プランの検証を含む）

正答率が目標値と比較して±5ポイントを基準として≡で表す。

基準を上回るものを☆、下回るものを▽で表す。

	領域	令和7年度	令和6年度
第4学年	物質・エネルギー	≡	
	生命・地球	≡	
第5学年	物質・エネルギー	≡	≡
	生命・地球	≡	▽
第6学年	物質・エネルギー	▽	▽
	生命・地球	▽	▽

〈昨年度の授業改善プランの成果〉

- ・自然の事物・現象に触れる時間の確保により、児童は疑問や知りたいことをもって学習に取り組むことができた。
- ・考察の文型の提示によって、考えを表現できる児童が増えた。

〈正答率の低かった問題〉

4年…実験結果を基に考察する問題、実験器具の使い方に関する問題

5年…実験を通して理解できたことを、生活に還元する問題、実験結果を基に考察する問題、予想が正しかった場合に得られる実験結果を選ぶ問題

6年…「天気の変化」…用語を答える問題、予想を基に実験結果を推測する問題、実験方法が適切かを判断し、理由を説明する問題、与えられた情報を基に適切な条件を選ぶ問題

2 授業改善のポイント

思考を促し、考えを表現できるようにするために

中学年	・学習の流れをスタンダード化し、定着させる。 【問題の見だし⇒予想・仮説⇒計画⇒実験⇒結果⇒考察⇒結論】 ・自然の事物・現象にふれあい、共通点や相違点を基に疑問や知りたいことを見いだす時間を確保する。 ・実験の計画と結果の分析では、視点を明確にできるように学習問題を意識させる。 ・ノートや板書、発言などで理科の用語の使用を徹底させて、用語の理解を促す。 ・具体物の操作はペアや個別での活動にし、すべての児童が実験器具に触れることができるようにして、道具の取り扱いを正しく身に付けさせる。
高学年	・実生活とのつながりを意識した課題設定。 ・単元導入や終末では、学習内容がどのように関連しているか、あるいは関連させられるかを考えたり、事例を学んだりする時間をとる。

	・実験では、実験結果の予想もさせ、実験結果を見る視点を明確にさせる。 ・考察では、実験結果と予想を比較することを手掛かりにさせ、考察や判断の理由を言語化できるようにする。
--	---